

療養病棟における薬剤使用に関するアンケート
- 集計結果報告

日本慢性期医療協会
薬剤委員会委員長
高野喜久雄

日本慢性期医療協会・薬剤委員会では、高齢者医療における薬物療法について、高齢患者の身体的機能、経済的負担を考慮し、最小の投与量で必要かつ十分な効果を得るための処方構築について調査・研究を行っており、特に下記5項目を、調査・研究テーマに掲げ活動しているところです。

1. ポリファーマシーの回避
高齢患者は、複数の疾患に罹患している場合が多く、個々の疾患治療のために多剤併用となる。薬剤の相互作用等を考慮し、最小の投与量で必要かつ十分な効果が得られるよう、薬剤の適正使用について研究する。
2. ジェネリック薬の使用促進と評価
経済性だけにとらわれず、ジェネリック薬の効果について客観的評価を行い、安全に使用できるジェネリック薬について研究する。
3. 高齢患者への服薬支援
適切な薬剤投与方法(簡易懸濁法等)の考案により、高齢患者・介護者への服薬を支援する研究を行う。
4. 高齢者において疾患・病態によらず一般に使用を避けることが望ましい薬剤
国立保健医療科学院疫学部発表の薬剤リストについて、その対応を研究する。
5. 緩和ケアに係わる医薬品の安全使用
高齢患者への、緩和ケアに係わる医薬品の安全使用について研究する。

そこで、平成21年1月に、会員施設を対象として上記5項目についてアンケート調査を実施いたしました。本調査の概要については、第17回日本慢性期医療学会(浜松大会)シンポジウムでもご報告致しましたので、学会発表資料とともに調査集計結果をご報告致します。